

「増進型地域福祉づくり」に関するアンケート調査

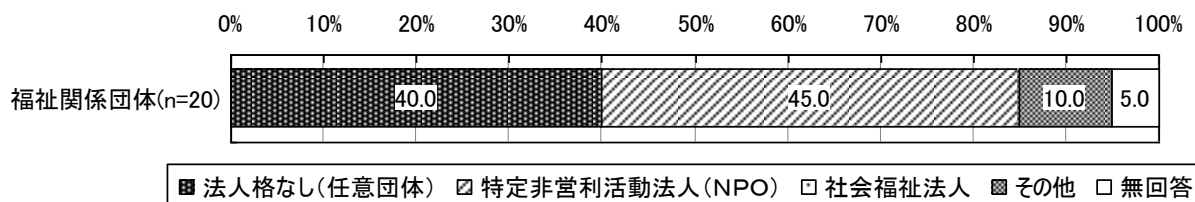
■福祉関係団体調査の主な調査結果（共通設問を除く）

※令和3（2021）年5月28日から6月30日にかけて郵送法により実施（礼状兼催告1回）

調査	調査対象	配布数	回収数	回収率
福祉関係団体	市内で福祉活動に取り組んでいる団体	30	20	66.6% (前回 63.7%)

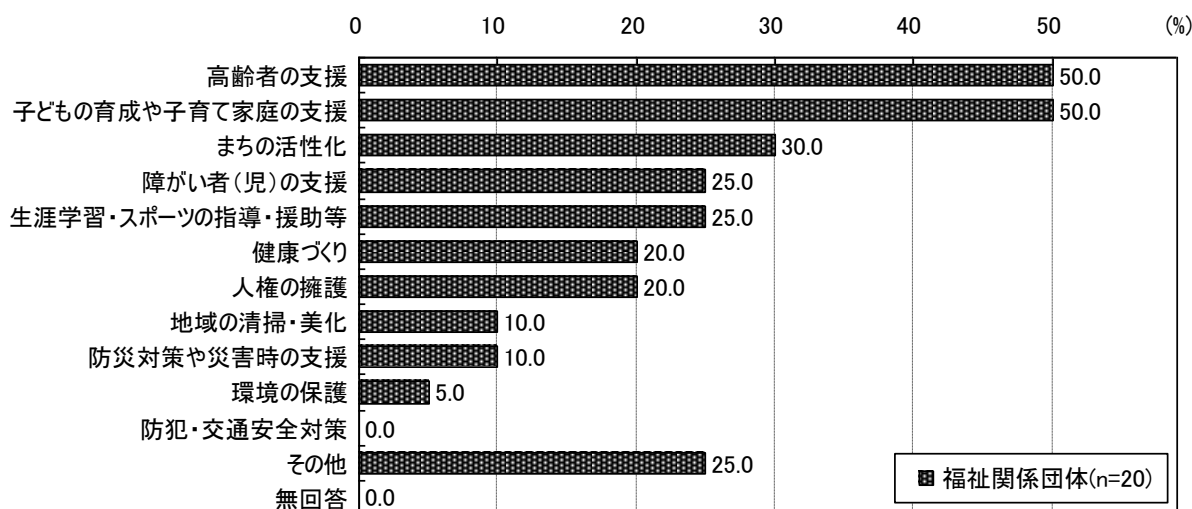
※アンケート調査結果の各設問の母数n (Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。
 ※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。
 ※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

◆貴団体の形態についてお選びください。（○は1つ）



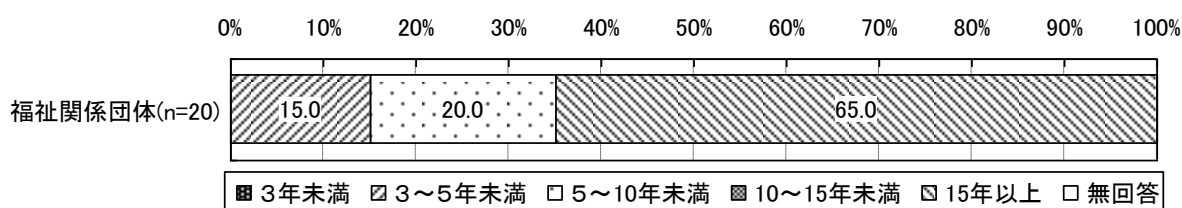
・「特定非営利活動法人（NPO）」が45.0%、「法人格なし（任意団体）」が40.0%となっています。

◆貴団体では、どのような分野の活動をされていますか。（○はいくつでも）



・「高齢者の支援」と「子どもの育成や子育て家庭の支援」がそれぞれ50.0%、次いで「まちの活性化」が30.0%、「障がい者（児）の支援」と「生涯学習・スポーツの指導・援助等」がそれぞれ25.0%などとなっています。

◆貴団体では、どのくらいの期間、活動されていますか。(〇は1つ)



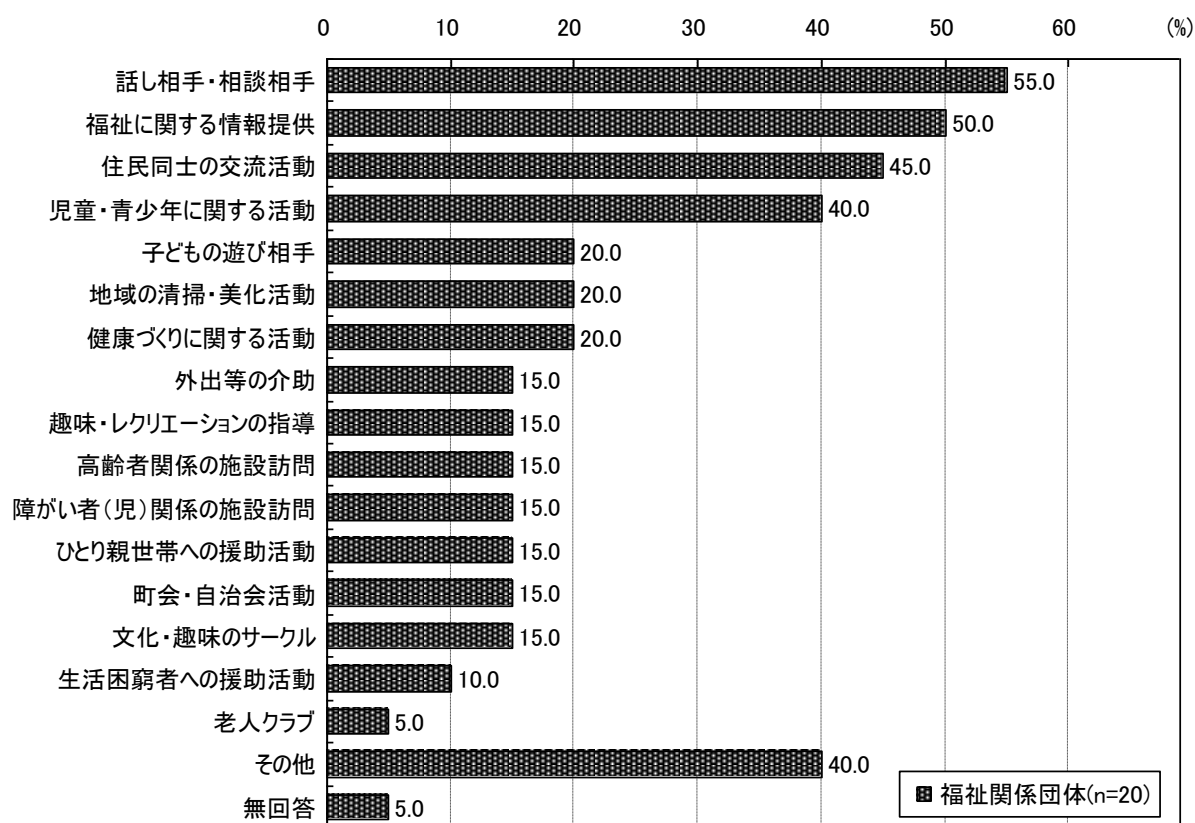
・「15年以上」が65.0%となっています。

◆富田林市内において、最近（おおむね2～3年程度）、新たに起きた問題や増加傾向にある問題等があればお書きください。

※主な自由記述内容

- ・地域の異世代間のつながり（交流）が希薄になってきているように感じます。
- ・独居老人の増加。老老介護世帯の増加。認知症の多発。施設入居の増加。
- ・独居居住者の死（孤独死）、経済的格差の拡大、子どもの環境の変化。
- ・発達障がい児の福祉サービスが充実する一方で、保護者がサービスを過剰に利用し、親子間の関係が変化し、私たちのような自助団体を頼る人が減少している。
- ・生活困窮となる若者の増加、こころの病の相談。
- ・外国人市民の増加により、ゴミ出し、騒音のトラブル、日本人の偏見に関わる言動が表面化してきているように思われる。

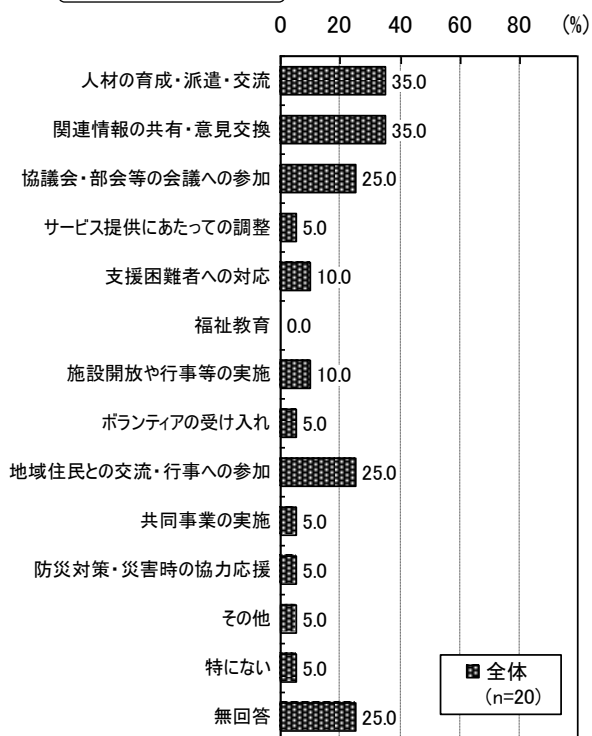
◆富田林市内において、貴団体が現在取り組んでいる活動がありますか。(〇はいくつでも)



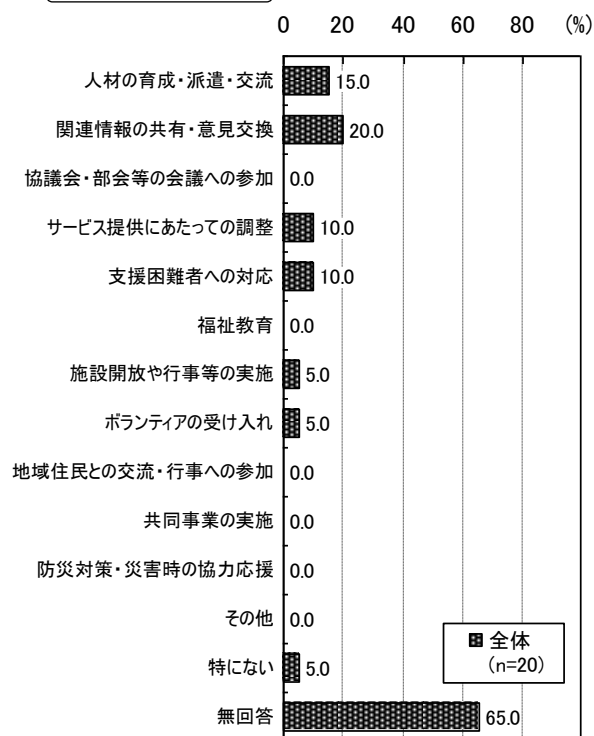
・「話し相手・相談相手」が55.0%と最も多く、次いで「福祉に関する情報提供」が50.0%、「住民同士の交流活動」が45.0%、「児童・青少年に関する活動」が40.0%などとなっています。

◆貴団体が活動される上で、関係機関や他の団体等を行っている連携・協力の主な内容等についてお答えください。(組織・機関ごとに「連携・協力の主な内容」から3つまで選択して数字を記入)

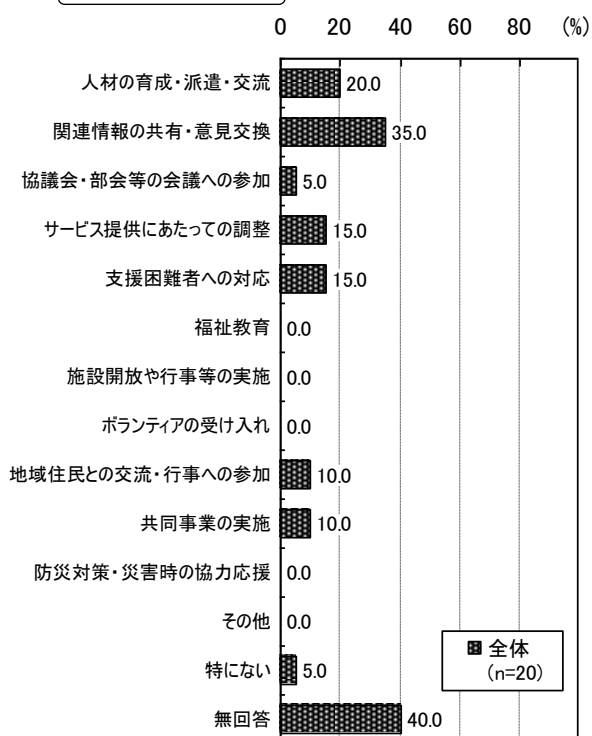
①他の団体



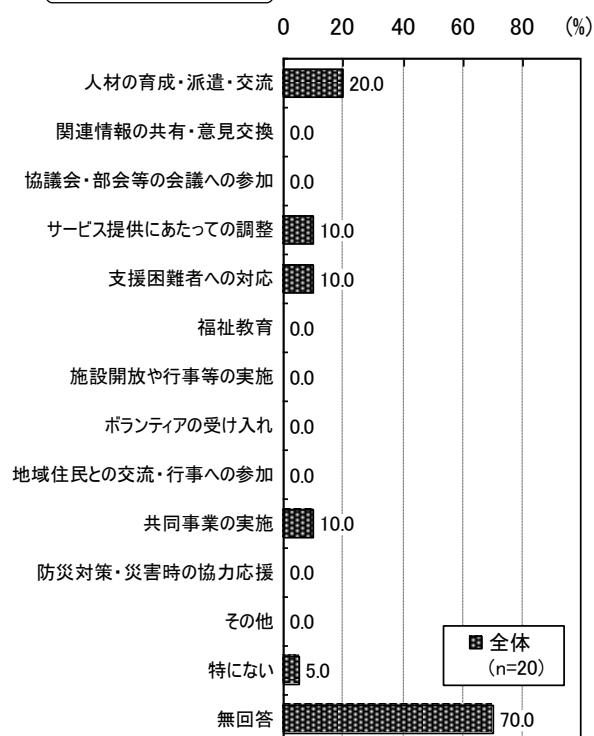
②福祉サービス事業所



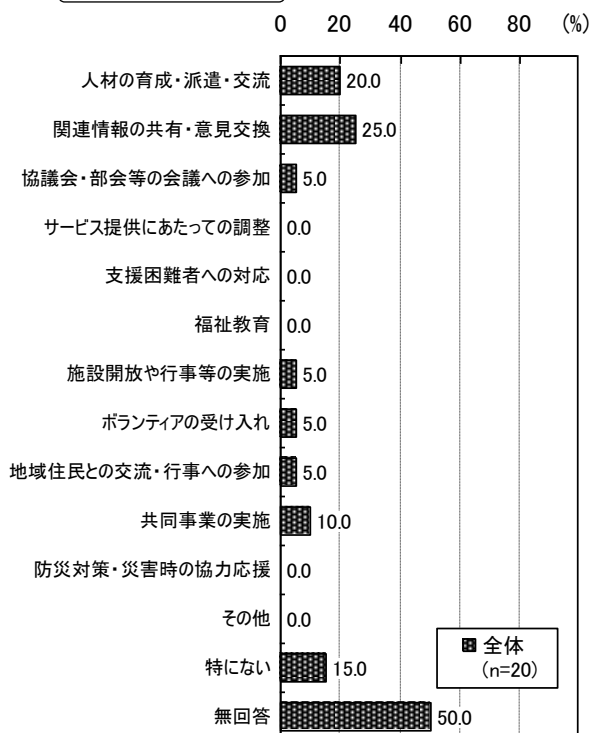
③相談支援機関



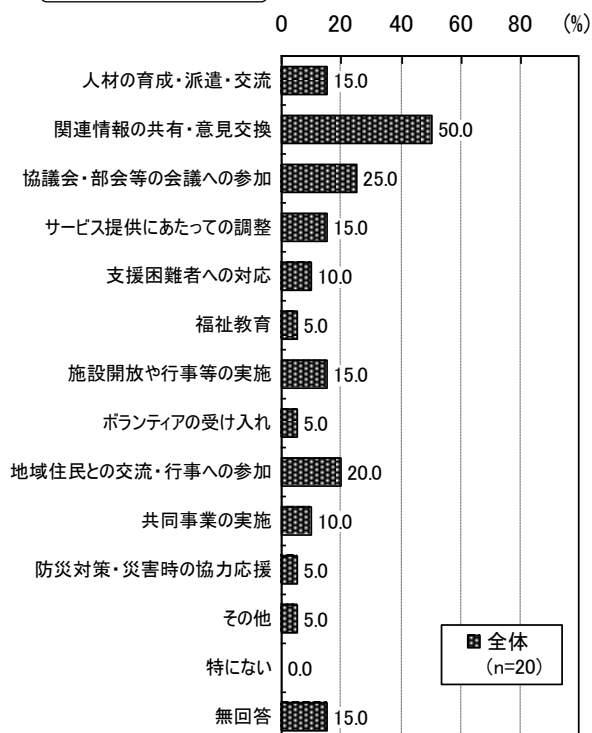
④医療機関



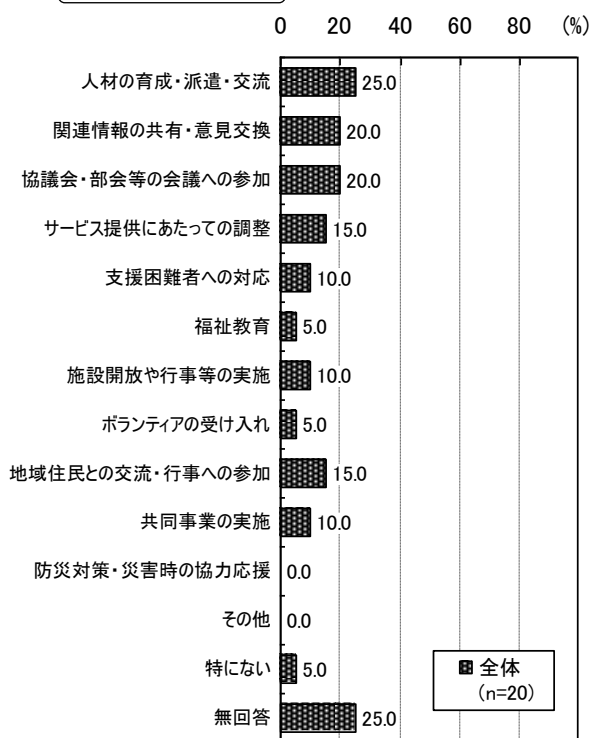
⑤学校・幼稚園・保育所等



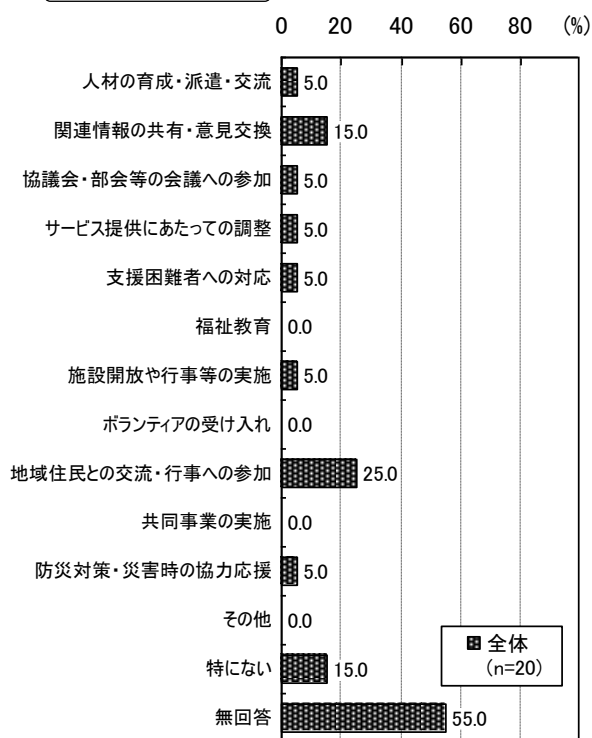
⑥行政



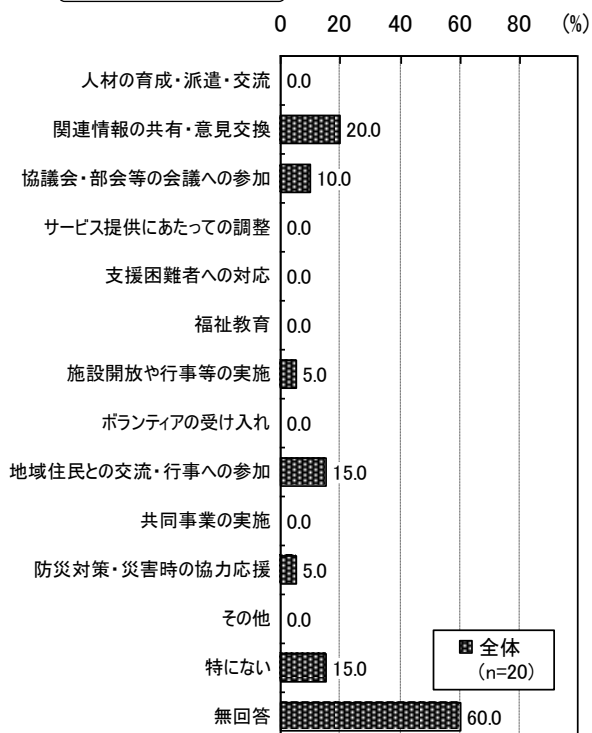
⑦社会福祉協議会



⑧町会・自治会等の地域団体



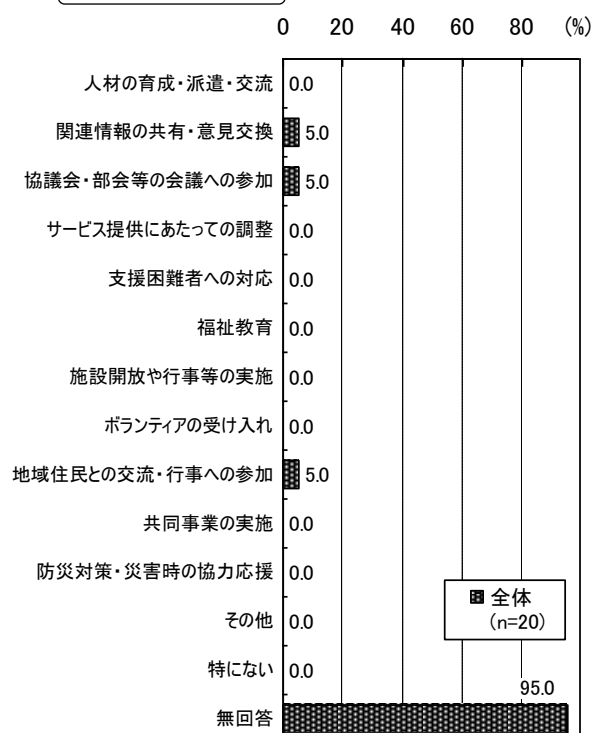
⑨ 民生委員・児童委員



⑩ 校区・地区福祉委員会



⑪ その他

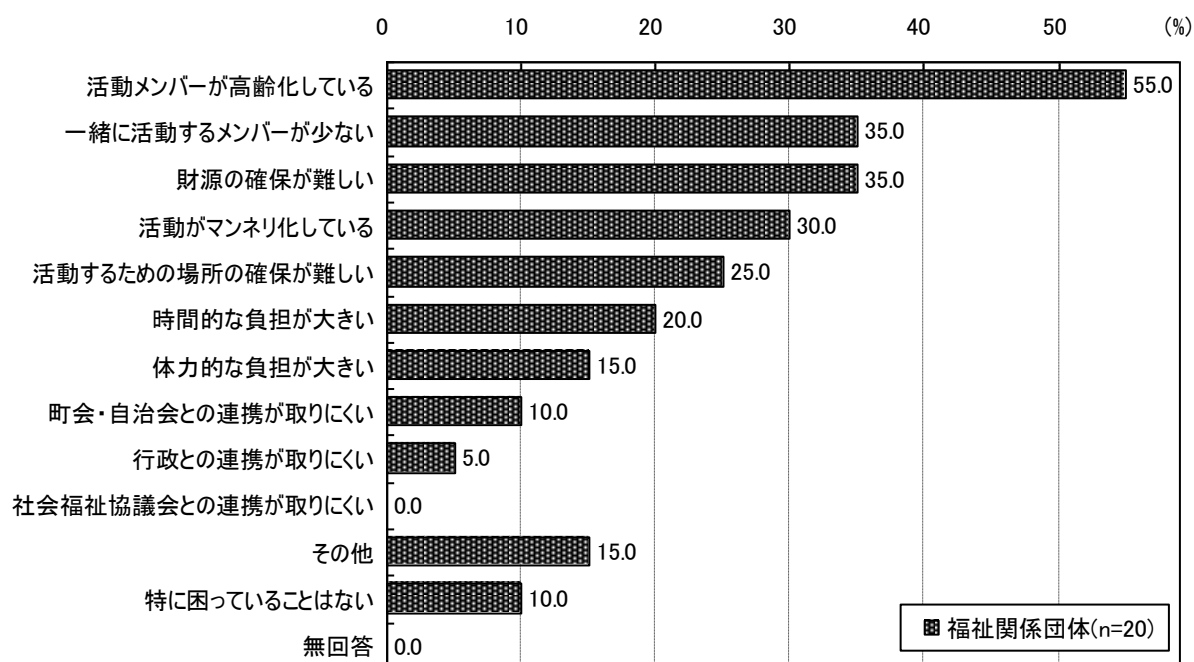


- ・組織・機関と連携・協力の主な内容別に割合の高いものは、行政と「関連情報の共有・意見交換」が50.0%、他の団体と「人材の育成・派遣・交流」、他の団体や相談支援機関と「関連情報の共有・意見交換」がそれぞれ35.0%などとなっています。

※主な自由記述内容

- ・個人情報保護のため、情報提供する際の限界がある。特に行政と連携する際、公的機関として特定の団体と連携はできないと言われたことがある。
- ・民生委員活動に障がい福祉も加えていただきたい。
- ・若者（青少年）に対応できる団体がなく、他の団体や行政につなげて返ってくることが多い。

◆団体活動などを通じて現在抱えておられる問題点・課題がありますか。(〇はいくつでも)

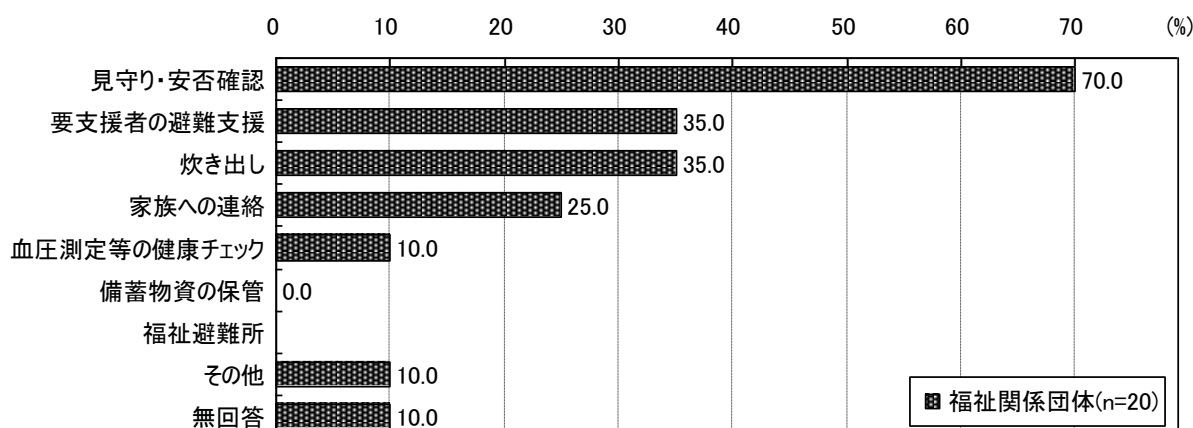


・「活動メンバーが高齢化している」が55.0%と最も多く、次いで「一緒に活動するメンバーが少ない」と「財源の確保が難しい」がそれぞれ35.0%、「活動がマンネリ化している」が30.0%などとなっています。

※主な自由記述内容

- ・やはり担い手の高齢化ではないでしょうか。70歳就業機会確保の義務化でその傾向はさらに高まります。60歳以降に食べていけるくらいの収入を確保できれば地域貢献に関わる活動に身を置く層は一定数あるのではないのでしょうか。65歳では遅いです。
- ・働いている人がほとんどで、あまり参加してもらえない。
- ・活動メンバーが希望する活動時間帯が10時～15時頃の平日のため、利用者が15時以降のサービスや土・日・祝日を希望した時に人手不足になる。
- ・財源が少なく、スタッフは非正規雇用、低賃金で働いています。勤務年数が長くなり様々な負担に比べて生活が保障されないことでモチベーションが下がっており、仕事を続けるかどうか悩んでいるスタッフがいます。また財源が少ないため人員を増やせず、活動範囲も広げることが難しいです。
- ・活動のための講師の確保、講座のための教室の確保に苦慮している。行政側の出前講座の充実をお願いする。

◆避難行動要支援者（高齢者や障がい者（児）など自力で避難することが困難な方）への救助活動や支援について貴団体として協力できることは何ですか。（○はいくつでも）



・「見守り・安否確認」が70.0%と最も多く、次いで「要支援者の避難支援」と「炊き出し」が35.0%となっています。

◆富田林市における福祉活動の推進や暮らしやすい地域づくりに向けて、貴団体として現在取り組んでいること、今後新たに取組んでみたいことがありましたら、自由にお書きください。

※主な自由記述内容

- ・地域での顔見知りを増やし、いざという時に助け合えるような住民同士のつながりづくり、交流の機会を作ること。
- ・現在、地域に関わりたと言っている若者（学生ボランティア）を100名ほど抱えていますが、活躍できる場がありません。若者が活躍できる場を作りたいと考えています。
- ・地域や介護予防教室の中において、介護予防の大切さやその方法を伝え、地域の人への介護予防及び健康づくりの支援を行っている。
- ・精神障がい者のご家族、特にヤングケアラーの支援に取り組んでいきます。
- ・発達障がい児の保護者向けサロン。ペアレント・トレーニング。
- ・少数派であるろう者のオアシスとしてサークル活動を続けている。手話を広めていきたい（ろう者の理解）。
- ・子育て支援として親子たちの交流の場（つどいの広場）の提供や、子育て家庭へのヘルパー派遣を行っている。また、家庭に寄りそった保育をするため家庭的保育事業も実施。
- ・地域で子育て支援事業をしています。働くお母さん、1歳で仕事を復帰される方が多く、両立するうえで不安が大きい。保育園後の支援、学童保育をしていきたい。
- ・ひとり親で子育て中の世帯へ、定期的に食材を無料で届ける活動。
- ・日本語教室の実施、外国人市民の相談に対応、学校などでの多文化共生学習への講師派遣協力、外国にルーツを持つ子どもたちのエンパワメント支援事業に取り組んでいます。
- ・DV、ハラスメント、虐待など暴力の被害者サポートと啓発研修講座など。